

# 神奈川県横浜市港北区日吉本町方言 の立ち上げ詞

嶺田 明美

## I. はじめに

①調査対象地 横浜市港北区は横浜市の北部に位置し、北は川崎市と接している。港北区の人口は、2004年9月30日現在で307637人、人口密度は横浜市の区別人口密度の統計で第4位である(9807人/km<sup>2</sup>)。東京都のベッドタウンであると同時に、日吉地区に大規模大学もあり、通勤通学による流出入人口の多い地区である。産業では、横浜市の中でも製造業と不動産業の事業所が多い。農家や耕地もあるが、年々減少している。〈以上 平成16年度港北白書「港北グラフィック」港北区役所を参考〉

日吉本町は港北区の北部に位置する地域である。話者宅は、東急東横線日吉駅からバスで15分ほどの地域である。日吉本町はもともと沼地が広がる場所で農家もあったが、50年ほど前に大規模工場が誘致されてからは、その工場を中心に町が変化した。商店街もあったが、大型スーパーが出店し、小売りの商店はだんだんと姿を消している。幹線道路も走り、現在では住宅が密集する地域である。

②調査年月日 2005年9月25日 午前10時30分から11時45分まで

③話者 三田村 尚(1954年11月生まれ) 三田村恵美子(1956年3月生まれ)

④調査者・調査場所 嶺田明美 話者宅

⑤調査方法 統一調査票による質問調査

⑥その他 (1)アクセントは高い部分に棒を引いた。文末の上昇が目立つ場合は、↑を付けた。(2)調査票通りの質問文では回答がなかった場合は似た状況を設定し、それについて回答を得た。話者のコメント、調査者の気づきは〈〉内に記述した。(3)話者は男女それぞれ1名ずつだが、主に男性の使うものを聞いた。女性話者が回答した場合は両形をあげ、〈〉内に注記した。

## II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1)どっこいしょ。一休みしよう。

○ヨッコラシヨ ヒトヤスマ スンベ。よっこらしよ、一休みしよう。

(2)どうれ。出かけることにしよう。

○サー デカケヨー。さあ、出かけよう。

(3)よいこらしよ。とうとう山のとっぺんに着いた。

○ヨッコラシヨ トートー ツイタ。よっこらしよ、とうとう着いた。

(4)しまった。もうちょっとで落ちるところだった。

○ウワッ オチルトコダッタ。うわっ、落ちるところだった。

(5) くわばら、くわばら。恐ろしかった。

○クワバラ クワバラ。くわばら、くわばら。<これからオツカナイ（恐い）所へ行く時や、怖い時、蛇に出くわした時などにおまじないのように唱える>

(6) しめた！今度の魚は大きいぞ。

○ヤッタ コンドノワ オーキーズー↑。やった、今度のは大きいぞ。

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○ショーガネー トビコエヨー。仕様がな、飛び越えよう。<ママヨ、という言い方は得られなかった>

(8) なにくそ！負けてなるものか。

○ヨシ ヤッテヤルゾ。よし、やってやるぞ。

(9) しめしめ！誰も気がついていない。

○ヤッタ ヤッタ ウマク イッタゾー↑。やったやった、うまくいったぞ。<ヤッタ、ヤッタのところは、声をひそめるような感じ>

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○チエッ ツマンネーデー。ちえっ、つまらねえなあ。

(11) ちくしょう！仕返しをしてやる。

○チクショー イマニ ミテロ。ちくしょう、今に見ている。

(12) くそっ！覚えている！

○クソッ チクショーメ オボエテイロ。くそ、ちくしょうめ、覚えている。

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○アレアレ ドーシター。あれあれ、どうした。<アレアレは高年層の女性がよく用いる>

(14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○回答が得られなかった。

(15) はてな、ここはどこだろう？

○ハテナ ココワ ドコダベ↑。／ハテ ココドコダロー。 はてな、ここはどこだろう。

Ⅱ. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハー ワカリマシタ。はあ、わかりました。

(17) よろしゅうございます。

○ハー イーデスヨー↑。はあ、いいですよ。

(18)ええ、ここに居ます。

○オー ココニイルヨ。おお、ここに居るよ。<町内会などの顔見知りの目上には、親しい口調が多い>

(19)んだ。私の傘だ。

○ツーダヨ オレンダヨ。そうだよ、俺のだよ。

(20)さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ソー ソー オマーノ イウトーリ。そう、そう、お前の言うとおりの。<女性は二人称代名詞にアンタを用いる>

(21)はいきた。おやすい御用です。

○ハイヨ。はいよ。<心の中では待ち望んでいても、それをあまり表に出さず、ショーガネーナ ヤツテヤンベ（仕様がないな、やってやろう）のように言うことが多い>

(22)よっしゃ。やりましょう。

○ヨシッ ヤンベ。よしっ、やろう。

(23)よききた。お引き受けいたしましょう。

○ヨシッ ワカッタ。よしっ、わかった。

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○ウン イッショニ イクベ。うん、一緒に行こう。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○ソツチノ ヘノカッパダヨ。そんなの、へのかっぱだよ。

(26)いえいえ、どんでもごさいません。

○イーデスヨ コチラモオセワニチッテルカラネ。いいですよ、こちらもお世話になっているからね。<軽い感じの時には、イイッテ、イイッテ（いいって、いいって）のように言う。女性は、イーノヨ（いいのよ）のように言うことがある>

(27)なんの、たいしたことはごさいません。

○イーエ ダイシタコトチイヨ。いいえ、大したことはないよ。

(28)なあに、擦り傷ぐらいすぐ治るさ。

○イヤ ソンクレーダイジョーブダヨ。いや、そのくらい、大丈夫だよ。

(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って。

○チンダヨ チョーシノイーコトバッカ。なんだよ、調子の良いことばかり。

(30)いやはや、とんだ目に遭いました。

○イヤ トンダコトダッタ。いや、とんだことだった。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○モーイーヨ カツテニシロ シラネーヨ。もういいよ、勝手にしろ、知らないよ。

(32)なめるんじゃねえよ、こいつ。

○バカニ<sup>ス</sup>ン<sup>ジャ</sup>ネーヤ。ばかにするんじゃないや。

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って。

○チーニ<sup>イ</sup>ッ<sup>テン</sup>ダ<sup>ヨ</sup>ー ウソバ<sup>ツカ</sup>イ<sup>ツ</sup>テ。何言ってんだよ、嘘ばっか言って。

(34)だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って。

○ウル<sup>セ</sup>ー ダ<sup>マ</sup>レ。うるさい、黙れ。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソ<sup>ン</sup>チ<sup>コ</sup>ト<sup>イ</sup>ッ<sup>タ</sup>ッ<sup>テ</sup>ダ<sup>メ</sup>ダ。ウ<sup>メ</sup>ー<sup>コ</sup>ト<sup>イ</sup>ッ<sup>タ</sup>ッ<sup>テ</sup>。そんなこと言ったってだめだ。うまいこと言ったって。

(36)うそもへちまもありやしねえ。我慢できねえ。

○チョー<sup>シ</sup>ノ<sup>イ</sup>ー<sup>コ</sup>ト<sup>ユ</sup>ー<sup>ナ</sup>。調子の良いこと言うな。

(37)寝言は寝て言え、このやろう。

○チョー<sup>シ</sup>ノ<sup>イ</sup>ー<sup>コ</sup>ト イッ<sup>テン</sup>ジャ<sup>ネ</sup>ーヤ。調子の良いこと、言ってるんじゃないや。<少しばかにしたような調子で言う>

(38)あたりきしやりきけつ<sup>の</sup>あな。当たり前だ。

○ソ<sup>ン</sup>チ<sup>コ</sup>ト キ<sup>マ</sup>ッ<sup>テ</sup>ン<sup>ジ</sup>ャ<sup>ン</sup>カ<sup>ヨ</sup>ー。そんなこと、決まっているではないかよ。

(39)きみようきてれつだ。それは変だ。

○へー↑、ホ<sup>ン</sup>ト<sup>カ</sup>ヨー ソー<sup>カ</sup>ヨー。へえ、本当かよ、そうかよ。<へーの部分は疑うような、ばかにしたような感じで言う>

(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○へー ソ<sup>リ</sup>ャー<sup>ス</sup>ゲー<sup>ナー</sup>。へえ、それはすごいな。

(41)まいったまいった、仕方がない。

○ウー<sup>ン</sup> ヨ<sup>ワ</sup>ッ<sup>タ</sup>ナー。うーん、よわったな。

### Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○ア<sup>ア</sup>ー チョ<sup>ット</sup> ス<sup>ン</sup>マ<sup>セ</sup>ン シ<sup>ヤ</sup>ク<sup>シ</sup>ョ<sup>ワ</sup> 下<sup>コ</sup>デ<sup>ス</sup>カ。あのう、ちょっと、すみません、市役所はどこですか。

(43)のうのう、旅の人、お立ち寄り下さい。

○ア<sup>ア</sup>ー チョ<sup>ット</sup>。あの、ちょっと。<あまり他人に声をかけるようなことがなく、回答が難しい>

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○オ<sup>イ</sup> チョ<sup>ット</sup> ミ<sup>テ</sup>。おい、ちょっと、見て。<女性は、ネー チョ<sup>ット</sup> のように呼びかけることがある>

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ。

○オイ オメー 下コイクンダヨー。おい、おまえ、どこ行くんだよ。<第二人称が子どもの場合は、高年層の男女とも、オメーを用いる。cf20 >

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい。

○ネーネーネーネー、チョット イーイ。ねえねえねえねえ、ちょっといい。

(47)いざ、さらば。

○ジャー マタナ。じゃあ、またな。

(48)ささ、ご遠慮なく、召し上がってください。

○サー ドーゾ。さあ、どうぞ。<気兼ねのない人には、オイ ハヤク クエヨ、チンダヨー クワネーノカ (おい、早く食べよ、何だよ、食わないのか) のように勧める>

(49)さて、そろそろ一服しませんか。

○サテ ソロソロ イクベーカー。さて、そろそろ行こうか。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○コラ オキヤクサンキテッカラヨー シズカニシロー。こら、お客さん来てるからよ、静かにしろ。

(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オメー ナニヤッテンダヨ。お前、何やってるんだよ。<緊急の場合は、呼びかけることばは使わないで問いつめる>

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか。

○ナニオー↑ イーカゲンニシロ。何を、いい加減にしろ。<少しあきれた感じで言う>

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○アノヤロー ヤッタナー。あのやろう、やったな。<女性は、アタナカ コシテヤルー (あんたなんか、こうしてやる) のように言う>

(54)どっこい。その手には乗らない。

○回答なし。<断る時には理由を考えて、その理由を言う。イマ カネネーヨ (今、金ないよ) >

(55)どうだ、参ったか。

○オメー イーカゲンニシロヨー ワカッテンダゾ ソコラヘンニシトケ。お前、いい加減にしろよ、分かっているんだぞ、そこらへんにしておけ。

(56)せいの、よいしょ。

○セーノ ヨッコイシヨ。せいの、よっこいしょ。

(57)ようい、どん。

○ヨーイ下ン。よういどん。

(58)いっせいの、で。

○セーノ。せいの。

(59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ。

○オイショツ オイショツ。おいしょ、おいしょ。

(60)うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ドッコイショ モウチョットダ。どっこいしょ、もうちよつとだ。

(61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイ ワッショイ。わっしょい、わっしょい。<子ども御輿は引っ張る形だが、それもワッショイワッショイと言う>

(62)はじめはぐう、じゃんけんぼん。あいこでしょ。

○チッケンボイ アイコデショ。ちっけんぼい、あいこでしょ。

(63)きをつけ、前へまらえ、なおれ。

○キオツケ マエニナラエ ナオレ。気をつけ、前にならえ、なおれ。

(64)起立、礼、着席。

○キリーツ キョーツケ レー チャクセキ。起立、きをつけ、礼、着席。

(65)ばんざい、ばんざい、やった、やった。

○バンザーイ。ばんざい。

(66)えいせいおう。

○ヨシ イクゾー。よし、いくぞ。<最近は何陣を組んで、ファイトなどという>

(67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○デワ ○○サンノ タンジョウヲシユクシテ カンパーイ。では、○○さんの誕生日を祝して、乾杯。

(68)やっほう、やっほう。

○ヤッホー ヤッホー。やっほう、やっほう。

(69)ふれえ、ふれえ、白組。

○イケー イケー シログミ。いけ、いけ、白組。<フレーフレーも聞いたことはある>

(70)鬼は外、福は家。

○オニワースト フクワウチ。鬼は外、福は内。

(71)べらぼうめ、とんでもない子だ。

○チンダヨー トンデモナイガキダ。なんだよ、とんでもないガキだ。

(72)それみたことか、わんぱく坊主。

○ホレミロ。ほれ見ろ。

(73)ざまあみろ、いい気味だ。

○ザ<sup>マ</sup>ーミロ、<sup>イ</sup>ーキミダ。ざまあみろ、いい気味だ。

(74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○コン<sup>チク</sup>ショ<sup>ー</sup> <sup>イ</sup>ータイコト <sup>イ</sup>ーヤガッテヨ<sup>ー</sup>。こんちくしょう、言いたいこと、言いやがってよー。

(75)このやろう、どうしてくれようか。

○コン<sup>ニヤ</sup>ロー シ<sup>ッ</sup>シ<sup>ッ</sup>。このやろう、しっしっ。<シッシッは追い払う時の擬音語>

(76)たわけ、ふざけたことを言うんじゃない。

○ア<sup>ホ</sup>ー オ<sup>マ</sup> <sup>チ</sup>ニイッテンダヨ<sup>ー</sup>。あほ、お前、何言ってんだよ。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○ア<sup>ホ</sup>ジャネ<sup>ー</sup> <sup>イ</sup>イカゲンナコトバ<sup>ッ</sup>カ。あほじゃないの、いい加減なことばっか。

(78)あなかま、静かにしなさい。

○回答なし

(79)しいいっ、静かにして。

○シ<sup>ッ</sup> ウ<sup>ル</sup>セ<sup>ー</sup>ナ シ<sup>ズ</sup>カニシ<sup>ロ</sup>ヨ。しっ、うるさいな、静かにしろよ。

(80)ちちんぷいぷい

○<sup>〇〇</sup>サン <sup>チ</sup>チンブイ<sup>ブイ</sup> <sup>イ</sup>タイノ<sup>イ</sup>タイノ <sup>ニ</sup>ムカッテ<sup>ト</sup>ンデケ<sup>ー</sup>。〇〇さん、ちちんぷいぷい、痛い痛いの <sup>ニ</sup>に向かって飛んでけー。<〇〇は痛がっている人の名前を言う。~はその原因を作ったものや人を言う>

(81)あっかんべい、鬼さんこちら。

○ア<sup>ッ</sup>カンベ<sup>ー</sup> オ<sup>ニ</sup>サンコ<sup>チ</sup>ラ <sup>テ</sup>ノナル<sup>ホ</sup>ー<sup>エ</sup>。あっかんべえ、鬼さんこちら、手のなる方へ。

(82)あっぱれ、お見事です。

○オ<sup>マ</sup> ス<sup>ダ</sup>ー<sup>チ</sup>ー。お前、すごいなあ。

(83)でかした、でかした、日本一。

○ヤ<sup>ッ</sup>タ<sup>ジャ</sup>ネ<sup>ー</sup>カ<sup>ヨ</sup>ー。やったじゃないかよ。

(84)しっけい、すみません。

○友達に言う場合は、<sup>ア</sup>ー <sup>ワ</sup>リー<sup>ワ</sup>リー <sup>ゴ</sup>メンナ。ああ、悪い悪い、ごめんな。知らない人には、<sup>ア</sup>ー <sup>ス</sup>イマ<sup>セ</sup>ン。ああ、すみません。

(85)あばよ、達者でな。

○<sup>ジ</sup>ャー <sup>マ</sup>タ<sup>ナ</sup>ー <sup>ダ</sup>ンキ<sup>デイ</sup>ロ<sup>ヨ</sup>ー。じゃあ、またな。元気でいろよ。

### Ⅲ. まとめ

「他者との関係を立ち上げる立ち上げ詞」のうち、親しい者への呼びかけは比較的スムーズに回答が得られたが、知らない人への呼びかけは、そのような場面が減ってきており、回答が難しいようであった。また、慣用句的な表現はあまり用いていないようである。

神奈川県方言として特徴的といえる立ち上げ詞はあまり採取できなかった。その中であって、じゃんけんのかけ声(62)が特徴的であろう。

全体的に、ai 連母音が融合して [e:] または [ɛ:] となる現象が目立った。

(みねだ あけみ 昭和女子大学)